



観 光 竜 王

Sight seeing RYUO

第87号

☆

発行

竜王町観光協会

〒520-2592

滋賀県蒲生郡竜王町小口3番地

竜王町総合庁舎 西館2F

TEL 0748-58-3715

FAX 0748-58-3730

https://ryuoh.org

e-mail info@ryuoh.org



第24回近江中世城跡琵琶湖一周のろし駅伝 星ヶ崎城址

新年あけましておめでとうございませう。令和八年の新春を、皆さまお健やかにお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。平素は竜王町観光協会の活動に温かいご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年は、色々と節目の多い一年でした。四月には「大阪・関西万博」が開幕し、国内外から多くの来場者が関西一円を訪れました。新しい交流と賑わいが生まれました。十月には、わが国初の女性の内閣総理大臣として高市早苗氏が就任され、日本の政治史に新たな一頁が刻まれました。さらに滋賀県では九月に「国スポ・障スポ」が開幕し、スポーツを通じて多くの人々が集い、地域の力と絆を改めて感じる機会となりました。

そして何より、竜王町が町制施行七十周年という大きな節目を迎えた年でもあります。昭和三十年の町制施行以来、先人の方々のご尽力と、町民の皆さまの温かな支えによって歩みを重ねてきた歴史に深く感謝するとともに、その積み重ねの上に立つて次の時代を切り拓いていく責任を、改めて感じています。そして令和九年秋には、滋賀県、そして竜王町の観光にとって、いっそう追い風となる一年です。まず、JRグループによる「JRデザインেশョンキャンペーン」が滋賀を舞台に展開



竜王町観光協会

副会長 森 嶋 政 文

『未来へ歩む竜王町の一年に向けて』

され、県内各地の魅力が全国へ発信されます。プレに当たる本年は、わが町の豊かな自然や田園風景、地元の食文化など、竜王らしい魅力をしっかりと伝えていくよう準備したいと考えております。さらに、大河ドラマでは「豊臣兄弟」が放映され、戦国の世を舞台とした物語が全国に関心を集めます。湖東・湖西には彼らとゆかりの深い史跡が数多く残されており、竜王町周辺も歴史ロマンあふれるエリアとして注目されることでしょう。

あわせて、滋賀県が推進する「戦国デイスカバリ」滋賀びわ湖」の取組も本格化し、県内の戦国遺構や城郭、ゆかりの寺社を結ぶ多彩な観光プログラムが展開されます。観光は、地域の誇りと活力を生み出す大切な資源です。七十年の歩みを経た竜王町が、次の世代へとバトンを繋いでいくためにも、「自然・歴史・人」が織りなす魅力をさらに磨き上げ、訪れる方には心温まる体験を、住む方には「この町に住んで良かった」と感じてもらえるまちづくりを、観光協会として進めてまいります。結びに、本年が皆さまにとりまして健やかで実り多い一年となりますこととを心よりお祈り申し上げますとともに、引き続き竜王町観光協会へのご支援、ご協力をお願い申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。

『鏡山に魅せられ』



竜王歴史倶楽部
寺本 泰子氏
(庄)

植物の宝庫

〳鏡山は、世界でも一番の植物の宝庫〳
〳八重谷は、遠く奈良からの道が通っていた〳

〳鳴谷へ水晶を採りにいった。ポケットに入れて持って帰った〳

〳鳴谷の溪流で水遊びが楽しかった〳

鏡山（全景 写真①）は、花崗岩でできた山、大昔地下でマグマがゆっくりに冷え、その後隆起してできたという。この山並みは、山中、岩根へと続き岩質としては湖南アルプスと同系、平成の初め竹下内閣時、ふるさと創生事業でハイキングコースが整備されたと聞く。

アウトレット後方のコース入口に一歩踏み入れると、なだらかな砂山の起伏と灌木が織りなす明るい空間。アエンボ、ツゲ、ソヨゴ、ツツジなどが目を楽しませてくれる。コースを辿り緑陰の中へ進んで行くと、緑の羊歯類、日陰の植物が両脇にびっしり。右下に

は溪谷。沈砂池へと流れていく水の音に癒される。三十分足らずで大きな鳴谷池（池と案内柱 写真②③）。清々しい水面に映る周囲の景色の素晴らしさ。春の花盛りには、ヤマザクラ、ネジキ、クロモジ、ズミや数年に一度開花するというアオダモの輝く白い花。

足元には、シャガ、ヘビノボラズ、ノギラン。湿地には、ハルリンドウ、モウセンゴケが息づいている。季節が進むとカキランの群生やササユリ、トキ草、サギ草にも出会える。

希望ヶ丘団地への降り道は、創生事業で作られた石畳、植生を踏み荒らさないための木橋など、訪れる人への気持ちも表れていて優しい。秋の七草もちゃんと根付いており、冬を前に色づく葉、赤い実を付ける木々も良き存在である。今、この山を北限とする亜熱帯植物が絶滅危惧種として取り上げられ保護の必要性を迫られている。四季を通じて他府県からもビジターが訪れ、鏡山の自然への関心度が高い。

密かに眠る箱石山雲冠寺史跡

鳴谷池を廻って、「経塚」の案内板を左に、歩き易い落ち葉の山道を三八四、八mの山頂に向かって登って行く。鳴谷池への上り下りのコース

は、崩れ落ちる花崗岩の欠片で歩きにくいところが多いが、これからの道は、なめらかで歩き易い。三十分程で山頂を前にした雲冠寺跡へ行き着く。

雲冠寺については、東本願寺僧侶寺本婉雅師が調査された資料が残されている。婉雅師は、明治から昭和を生きた人。山面の仏巖寺の住持として在任中、明治四十二年から四十四年に山中へ足を運び、調査に心血を注がれた。

推古六年、聖徳太子の創建との口碑により輝かしい史蹟を有している。が、時代の変遷に伴い資料も残っていない。鏡山竜王ヶ峰

南面の中腹に、東西三十一間、南北八〇九間の平地としてある。「雲冠寺千坊」と寺坊の多さが言い伝えられるが、今確かめられるのは、数々の石垣の跡、井戸の存在、鐘桜堂の礎石、花崗岩に彫られた三尊菩薩磨崖仏（阿弥陀如来、観音菩薩、勢至菩薩）（写真④）、三十一段の自然石の石段、石地藏、龕祠（ずし）の跡、卒塔婆の台石などである。この地より少し南に外れて善光寺川上流に存在したという牟禮山法満寺との諍いによって焼かれたり、また信長との戦史も物語っている。上り口にあ

る経塚や、この後ろ山頂側の稚児谷にある三mを超す巨岩に彫られた地藏尊なども史実を語っている。

寺本師は、調査の過程で雲冠寺の遺跡として保存を図りたいと、四個の遺物を持ち帰り積み上げて、今も仏巖寺境内に祀られている。また、雲冠寺の地藏尊と同型の石碑は、葉師、七里、山面、鏡などの村に地藏盆の本尊として祀られ、他にも七里や鵜川の田畔に散在していたという。それから百年経た今、きつと田道の脇で鏡山を見上げ、村人を見守っていてくれると確信する。



シリーズふるさと探訪 (68)

「山の神 随想」

昨年令和七年、干支は巳年であったが、一年を通して熊の被害が相次ぎ、クマ年のようなであった。熊が市街地にまで出て人を襲うほどになった理由は、エサの木の実の不作によるものがあり、その不作の要因は昨夏の酷暑によるものであった。昔人なら、きっとこれは山の神の祟りとも思ったであろう。「山の神」とは、山に宿り山を支配する神霊を指し、山林の守護神や、春になると里に下りて田の神となる豊穡の女神として信仰されている。最近こうした「山の神」を祀る「山の神」の行事は、全国的に行うことは少なくなつたものの、各地で様々に実施されている。行事は女性禁制。山の神は嫉妬深い女神であるという伝承から、神事に女性が加わることを禁じ、男性のみで執り行われる地域も多いようだ。

七里の「山の神祭」

山の神の行事は竜王町七里では、「山の神祭」と呼ばれる。何年か前、この祭りを見学する機会があった。会場は、石部神社の石段を下り右に進み、竜王

町薬師との境のあたりの善光寺川左岸で行われた。祭壇には、二m角大で竹を柵で二カ所作り、祭神としてオタイ、メタイと呼ばれる、陶器製の祭神を祀る。一昔前は、股木の松で作った男女

対の人形の上部に顔を描き陰陽をつけたものだつたそうである。聞くところによると、そのような股木は、山に入つて懸命に探しても、めつたに見つかるものではなく大変なご苦労だったと聞く。御幣を平年十二本(閏年は十三本)立て、注連縄を張つて、松と榊を両側に立ててあつた。神饌には、焙烙(ほくらく)で煮た豆飯、甘酒、御神酒、鯛七尾を供えられた。供え物を神社から運ぶ道中、一同は静かに「山の神のチョウーサイ、チョウーサイ」(朝祭の意味か?)と言って囃し、榊のカギを注連縄に掛けて引つ張る。最後に甘酒や豆飯を頂いて、祭りが終わる。祭りといえども、決して賑やかではない、静謐な祭。寒風吹く一月の日にひっそりと厳かに行われるのを見学し、何か、心に沁みる気持ちになった。因みに「山の神祭」は、同町の山中、薬師でも同

様に行われるとのことである：閑話休題。

日本の林業政策と課題

本来、日本の山の生態系は、木材の原料となる常緑針葉樹と、水質浄化機能がある落葉広葉樹の共生によるバランスのとれた多様性のあるものであつた。(水質浄化機能とは、落ちた葉が微生物によつて分解されて、腐葉土がつくられ、そこに雨水等が浸透し濾過されて栄養分を豊富に含んだ地下水となり、川から海へと流れて海を豊かにする作用)それが、戦中・戦後の広

範囲にわたる無軌道な伐採と、針葉樹の植林が中心の政府の拡大造林政策によつて、スギやヒノキなどの膨大な人工林と借金、日本の山林に残されたスギやヒノキが、現代の国民病でもある「花粉症」を、もたらしている。現在、問題となつている「クマ被害」の要因といわれる木の実の不作も、決して、一過性のものではなく、むしろ、自然破壊の引き金にもなる恐れがある

といえる。

このように森林は、木材の供給だけでなく、水源の涵養や国土の保全など、多面的な機能を持っている。これらの機能を将来にわたつて十分に発揮させるためには、植栽や間伐などの適切な森林整備を行い、豊かな山、健全な森林の育成を図ることが重要である。

現在、林業関係者による対策案として、これまでのスギやヒノキを中心とした針葉樹の育成単層林から、針葉樹と広葉樹が混交する育成複層林の割合を増やす森林整備が考えられているようだが、早急に具現化すべきであろう。

山本 茂氏(美松台)



所さんの目がテン！「かがくの里」プロジェクト

十一年前位からだろうか、日本・読売系のテレビの番組で「所さんの目がテン！」（毎週日曜午前放映）の連載企画の中で、茨城県常陸太田市にある里山の再生を目指す「かがくの里」プロジェクトが始まった。科学の力で自然の働き、恵みを楽しく体感する学習番組なのだが、これが非常に面白く興味深い。大学の先生や農林業の専門家、地元の人々の協力によって衆知を集め、荒れた土地を、農薬を使わない方法や土壌改良、間伐などで再生する画期的な取り組みだった。農業、林業、養殖業などを組み合わせ、持続可能な里山の活用方法を模索し、豊かな生態系を復活させて、生物多様性を取り戻す長期実験となっている。実験といえども、既に絶滅危惧種のタガメの出現や、ニホンウナギの養殖に成功し、収穫祭が開催され、その取り組みが番組で紹介されるほど大きな成果をあげていた。

里山再生の活動は、徐々に拡がり、ネットワークを結ぶほどになっているという。国や地方自治体においては、一層の支援を強化し、活動を加速させて欲しいものである。また、我々も我々なりに、故郷の山の多様性を願い関心を持って見守ろう。十年後、五十年後になろうとも、国中の山々を、豊かで実り多き山容となして、あの「山の神」に喜んで頂こうではないか！

♪山は青きふるさと♪水は清きふるさと♪をいつまでも・・・

今後のイベント・祭典情報

一月一日（木）

綾戸・苗村神社
歳旦祭

一月十一日（日）午後一時より

七里・石部（いそべ）神社
弓始め神事

一月十四日（水）午後一時より

田中・八幡神社
粥占い

一月二十一日（水）

二月二十四日（火）
草津近鉄一階食品売り場
近江路（竜王町・米原市）
開催
地元特産品販売

一月二十四日（土）午前九時より

駕輿丁延命子安地藏尊御開帳
駕輿丁地藏堂
ご祈禱は午前九時、十時、十一時より
午後は数珠繰り法要

二月七日（土）～三月十五日（日）

竜王おひなさまめぐり
竜王町総合庁舎、公民館、図書館、牟禮山観音禅寺、

道の駅アグリパーク竜

王、道の駅竜王かがみの里、毛利志満、岡喜本店の八箇所で開催

二月八日（日）午後一時より

七里・石部（いそべ）神社
弓納め神事

四月十九日（日）今年より

齋行日変更
綾戸・苗村神社
苗村祭（例大祭）

五月三日（日祝）

山之上・杉之木神社界限
ケンケト祭り

五月五日（火祝）

綾戸・苗村神社
節句祭・流鏑馬神事



あとがき

新年明けましておめでとうございます。

昨年は色々とお世話になり有り難うございました。本年も宜しくお願い申し上げます。

例年早春に開催していましたが『鏡の里元服式』を十一月二十二日（日）に変更します。

このことは、昨年来宮司さまや区長さま、神社役員さまとの協議を積み重ね、錦秋の十一月二十一日（土）から二十三日（月祝）までの三連休の開催となります。式典への参加者や見物される方々をお迎えし、イベントの盛り上げと地域の活性化を目指すことから開催日を変更します。当日は、在阪テレビ局クルーや新聞記者の皆さままで境内は賑わいの中、参加者へのインタビュー等が昼間や夕方以降のニュースで放映されます。

この『鏡の里元服式』は、承安四年（一一七四）三月三日に源義経（幼名牛若丸）が鏡池で元服し源氏の再興と武運長久を鏡神社で祈願したとの言い伝えにより当時を偲んだイベントです。『鏡の里元服式』は、人生における入学や卒業、就職や退職、結婚やお子様の誕生等、人生の色々な節目をお祝いし、これからの糧を見出していたく記憶に残る式典と考えています。近年は、比較的遠方からの参加者が多いようですが、源義経という戦国時代のヒーローの足跡がこの鏡地域にあることを全国に発信し、観光誘客を目指します。その趣旨から地元をもっと盛り上げようと地域内からの参加者を大歓迎します。

（観光協会 事務局）